

12月定例教育委員会 会議録

日 時	令和3年12月9日(木) 午前9時30分～午前9時50分
場 所	甲府市役所 9階 会議室9-2
出席委員	數野教育長・市川職務代理者・原委員・末木委員・岡田委員
出席事務局職員	饗場教育部長・土屋教育総室長・望月生涯学習室長・樋口総務課長・寺田学校教育課長・宮川総務課課長補佐・橘田総務課課長補佐・吉田総務課主任
傍 聴 人	なし
署名委員	
委員会書記	

・教育委員あいさつ

・会議録署名委員の氏名 市川職務代理者

・11月定例会会議録の承認 原案のとおり承認

數野

末木

市川

岡田

原

1 開会

數野教育長

これより12月定例教育委員会を開会します。

(1) 教育委員あいさつ

市川職務代理者

みなさん、おはようございます。

昨今の様子をみますと、コロナウィルスも少しおとなしくなったように見えたのですが、新たな変異株であるオミクロン株の登場により先行きに少し不安が見え始めています。そんな中、令和3年も12月となり、残すところ3週間余りとなりました。令和3年の干支は「辛丑」(かのとうし)でした。陰陽五行説から見ると、その意味は、「辛」は思い悩みながら、ゆっくりと衰退していくことや、痛みを伴う幕引きを意味しているとのこと。また、「丑」は、発芽直前の曲がった芽が種子の硬い殻を破ろうとしている状態で、種の中に今にもはち切れそうなくらい生命エネルギーが充満している状況を表しているのだそうです。つまり、辛いことが多いだけ、大きな希望が芽生える年になるはずだったと言えるのでしょうか。確かに、コロナ禍のもとで、様々な批判を浴びながらのオリンピック・パラリンピックの開催。強烈なコロナの第5波。等々つらいことや苦しいことは多かったように思います。ただ、オミクロン株の不安はあるものの、現状では何か希望が見えてきたようにも思えます。

では、令和4年はどうなのでしょう。干支は「壬寅」(みづのえとら)です。

壬は土の下で芽が膨んで土がぐんと盛り上がっている様子を表しているのだそうです。一方寅は、春の発芽、豊穰を助ける虫などが土の中で動き、芽吹きが始まった状態を表しているとのことです。つまり、陰陽五行説から見た令和4年の干支「壬寅」は、「辛丑」の年という冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれることを表しているということです。新しい何か、力強く生まれ、大きな発展の元になることが期待できそうな気がします。

ともあれ、こここのところの様子からウィズコロナやポストコロナが現実味を帯びてきたように感じることも確かです。こうした状況の中で、コロナ禍のさなかに行ってきたことをもう一度見直す必要を感じます。ウィズコロナやポストコロナにおいて、すべてのことをコロナ以前に戻すことが必要なのかということ。もし、コロナ禍の中で行ってきたことを生かすなら、その意味は何なのか。こうしたことを再度評価し、これからの方針を作り上げる時期に来ているのではないのでしょうか。すでに市内の学校には、今後の方針についてどうするのかといった内容の通知がされたと聞いています。誠に時宜を得た対応であると思います。先のことはどうなるかわからないではありますが、令和4年の干支「壬寅」が示すように、今後の一層の発展の礎となるように準備をしていくことが大事ではないかと思う次第であります。

ご清聴ありがとうございました。

(2) 会議録署名委員の指名

數野教育長

会議録の署名委員は、市川職務代理者をお願いします。

(3) 前回会議録の承認

數野教育長

前回の議事録について、何かご意見ありますでしょうか。
よろしいでしょうか。

【原案どおり決定】

(教育委員会承認)

2 議事

(1) 報告

數野教育長

第18号 令和3年度総合教育視察の結果について
資料に基づきまして、寺田学校教育課長から説明をお願いします。

(寺田学校教育課長から資料に沿って説明)

數野教育長

説明が終わりました。これより質疑に入ります。ご意見、ご質問等ありますでしょうか。

原委員

令和元年度以来久しぶりの視察ですが、計画していただきましてありがとうございました。2年前の視察の時には、多くの学校でマンパワー不足を訴える先生が多く見受けられましたが、今回の視察では、加配による複数配置の効果を大変感じられる学校がございました。引き続き、学習指導員等の継続を切望されましたが、来年度以降の人員に対しての継続もしくは増員については、どのような予定になっているのか教えてください。

寺田学校教育課長

まず、令和2年度から今年度にかけて、学校に新たに入れた人材となりますと、学習指導員とスクールサポートスタッフということになるかと思えます。昨年度からコロナ対応ということで始まったわけですが、これで足かけ2年目になります。学校からは、非常に評価をいただいておりますので、令和4年度の予算等を考える中で、可能な限り、引き続き現状の学習指導員とスクールサポートスタッフを合わせて72名になりますが、これを維持できるように努めて参りたいと考えています。

末木委員

今回、各学校で学びの仕組みを一生懸命されていることを確認させていただきました。その中で特に今、児童生徒の数も減っていることもあって、非常に個別それぞれの児童生徒に合った効果的な学習に対応しようということで、いろいろ工夫と努力をされているのですが、今の特別支援学級だけでなく、それ以外の障がいを抱えている子ども、或いは外国籍の子どもも増えていると思います。それぞれの課題を抱えている子どもの対応は、人的な対応が当然求められ、各学校が丸丸となって対応をしていただくことになると思います。当然、人を増やすとお金もかかると思いますが、今後とも財政的な課題に対して、どのような対応をお考えですか。

寺田学校教育課長

先ほどのところでも話しましたが、現在コロナ対応で入れております各校2名の人材の確保に努めるということと、このほか従来から市担の教員や特別支援教育支援員についても状況を見極めながら、増員の可否について検討していく必要があると考えております。

これまでもそうですし、今後も考えておりますのは、一つは1人1台端末が入ったということで、これがいわゆる特別な支援が必要な子ども達にとって有効なものであると考えており、これを有効活用すること。もう一つは、これは常々学校の先生方にもお願いしているところになりますが、人を増やすと同時にその関わる人が、その子どもの特性を理解し、子どもに合わせた指導方法も身につけていく必要があると思っています。ただマンパワーを増やせば良いということではないと考えております。人的な部分でICTの活用、さらには指導方法など、並行して行うことが大事ではないかなと思っています。

岡田委員

コロナ渦ということで、そもそも学校施設の老朽化、また壊れてしまっているところの修繕をしていただくといったことも延期になってしまっております。早急に直さなくてはならないところはすぐに対処していただくと思えますし、もちろんコロナの感染状況は誰にもわかりませんが、そこは順次、進めていただくということによろしいでしょうか。

寺田学校教育課長

施設の老朽化とか気になる点については、その都度、教育施設課や学事課の方にご報告いただき、優先順位をつけて、まずは命に関わる部分から対応しております。来年度の学校予算のヒアリングで校長先生方にお越しいただいた時にも、学校教育課、学事課、教育施設課の3課の担当が直接、学校側のお話を聞く中で、優先順位を付け、また、学校でも同様に優先順位を付けて、今後も適宜対応していくことになると思っております。

數野教育長

その他何かありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

では確認しました。

【原案のとおり確認】

(教育委員会確認)

3 その他

數野教育長

その他何かありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

4 閉会

數野教育長

それではこれもちまして、12月定例教育委員会を閉会します。